

# 労働市場改革の課題

国際基督教大学客員教授  
八代 尚宏

- \*なぜ今、労働規制改革が必要なのか
- \*時代に合わなくなった日本の雇用慣行
- \*企業内訓練に潜む格差問題
- \*日本の雇用慣行は効率的だが不公平
- \*低成長時代に合った制度変更が不可欠
- \*解雇規制の問題点は基準が曖昧なこと
- \*解雇の金銭補償に反対する2者
- \*雇用指針で契約作成を促す
- \*派遣法に規制強化は現実無視
- \*誤解されるホワイトカラーエグゼンプション



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は八代先生に来ていただきました。八代先生は国際基督教大学と東京大学で学ばれて、その後、経済企画庁を経て、上智大学と国際基督教大学で先生をされたということでございます。1997年に石橋湛山賞を受賞されましたが、実は経済倶楽部での講演はそのとき以来で、久しぶりでございます。今日は労働問題につきまして、われわれから見ると岩盤が固くて時代の流れにまったく追いついていないという感じがいたしますが、どこに問題があるのか、今日はしっかりと話をお聞きできるのではないかと思います。

八代 尚宏  
手） それでは八代先生、お願いいたします。（拍手）

八代 ただいまご紹介いただきました八代でございます。本日はこのように大勢の方に来ていただきました、ありがとうございます。

私はいくつか本を出しておりますが、最初に出版していただいたのがこの東洋経済新報社からでて、1980年でした。『現代日本の病理解明』という本で、日経経済図書文化賞をいただきました。この本は今問題になっている学校教育、男女間賃金格差、年金、医療等を経済学の視点から取り上げたものです。

## なぜ今、労働規制改革が必要なのか

今日お話しする労働市場改革の課題というのも、非常に誤解が多い分野だと思います。というのも、労働市場の問題というと、マスコミに